



ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】国民の底意地の悪さが、日本経済低迷の
元凶 加谷 珪一 著 幻冬舎
ホームページ <https://primecorporation.jp/>

発行日 2025年5月1日 Vol. 271
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
代表取締役 渡邊 敏徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 1660 番地
Phone 0554-22-2810 Fax 0554-67-8006

淘汰と変化の時代

アメリカではトランプ大統領が再選されました。今まであたりまえのようにやってきた自由貿易の在り方について、関税などをチラつかせて世界中に疑問符を突きつけています。

強いアメリカの時代には、大盤振る舞いでやってこれたアメリカも今や貿易赤字も考えなければならなくなってきたということでしょう。

日本国内においても、いろんなところで変化が起きています。第四北越銀行を傘下に持つ第四北越フィナンシャルグループと群馬銀行は、2027年4月をめどに経営統合する基本合意を発表しました。また、山梨においても、山梨中央銀行と静岡銀行、長野県の八十二銀行と3行で包括的な業務提携を結ぶことを明らかにしました。何れも県をまたいだ基盤強化を図ることが狙いです。

人口減などで地方経済は力強さを欠き、地方銀行を取り巻く状況はとて厳しくなっています。日本銀行が利上げを進めて「金利のある世界」が本格化する中、ネット銀行など異業種を含めた預金の獲得競争も激しくなっています。

少子化と言われて久しいですが、「私立大学の経営『正常』半数割れ」という日経新聞の記事がでました。私立大学を運営する全国571の学校法人のうち、2023年度の収支状況などから経営が「正常状態」といえる法人が278法人で5割を切っている。136法人が経営困難な状況にあり、うち17法人が自力で再生が極めて難しい状態だと書かれています。少子化や物価上昇で私立大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。突然破綻すれば、学生に大きな不利益が及びます。

4月13日付の朝日新聞には「大工の数3分の1」という記事。大工さんの数がこの40年間で3分の1になった。国勢調査によると、「大工就業者数」は80年93万人をピークに減り続けていて、2020年には30万人を割りました。2035年には約15万人まで減ると試算がでていま

す。注文住宅は今後「ぜいたく品」になると予測。2023年度の首都圏における注文住宅の建築費は5,466万円で2013年度の倍近くになっています。

私たちは、今までの考え方からどういうふう生きていくのかを考え直さなければいけない時代が来ていますね。



マスク世代

「マスク世代」とは、主に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行期に学生生活を送った若者たちを指す言葉です。特に2020年から2022年頃にかけて、中学・高校・大学などの思春期・青春期をマスク着用が当たり前の環境で過ごした世代と言われています。

大学時代は年齢や背景が異なる仲間と出会い、アルバイトなどを通じて多様な経験を積む貴重な期間です。しかし、コロナ禍のせいでリモート授業が当たり前になり、自宅で一人きりという生活が続きました。友達や教授とのコミュニケーションは希薄になり、アルバイトも休業要請などで思うように働けない状況下でした。外に出ても人との接触が厳しく制限され、実際に対面での関わり合いをほとんど持てませんでした。

新年度が始まったが、今なおマスクを着用する若者は少なくない。新型コロナウイルスが広がりマスクが必要になって5年、慣れた若者たちからは「なかなか外せない」という声が聞かれます。このマスクを外せないということが常態化すれば、仕事におけるコミュニケーションへの影響も無視できません。また、表情や声の抑揚といった非言語情報を読み取る力が十分に培われず、自己の感情や課題に気づきにくい傾向がでてきています。

私たちは当たり前になっていたが、教育現場ですっと子どもたちがマスクをつけ続けてきたのは世界中でほぼ日本だけだったそうです。今後の社会活動のためにも意識的にマスクを外していくことが求められると感じます。



【座右の銘にしたい名言】



準備をしておこう。チャンスはいつか訪れるものだ。

エイブラハム・リンカーン (アメリカ第16代大統領)